

のため、当地方に来たともいわれる。またこの陣場は南北朝の折、畠山氏が長沼城を攻める時、陣したとも、伊達政宗が長沼城攻撃の折、ここに陣したともいわれる。

大正の初め上小中に火事があった。その時、村の女の人たちが「神おろし」をしたところ、元の御宅山の社に帰りたいという稲荷様のお告げがあり、大正十五年石の祠を立てて祀った。

(話者 鈴木一郎)

## 白方郷の由来

《滝》

滝字石妻の石沼八幡神社の前方にあたる一帯を白瀉の跡という。現況は全域水田となっているが、成務天皇の御代に、建美依米命初めてこの地に来たとき、白色の水をたたえた沼をみて命の出身地の河内国の白肩の津に似ていたので、白瀉と名づけられたのがもとで、白方郷の地名が生まれるようになったと伝えられている。

(「岩瀬村郷土誌」)

白清水

